

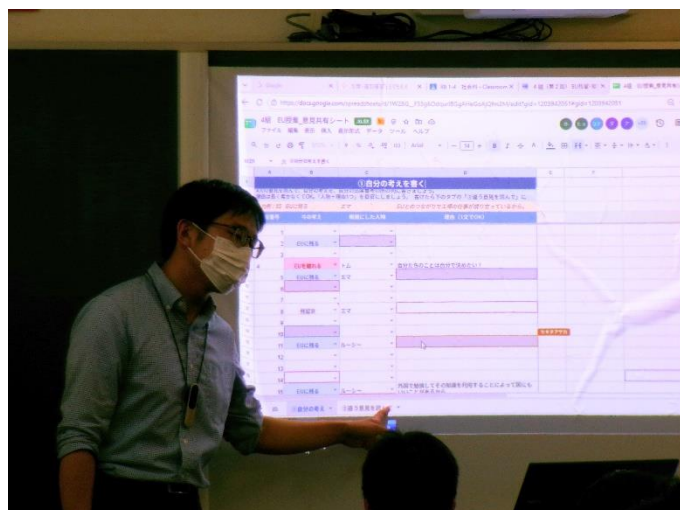
学校探訪レポート

～先生はみんなのパーソナルトレーナー！一人一人に寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

子どもたち一人一人の思考の過程に丁寧に寄り添い、多角的な視点と根拠を持って物事を捉える力を引き出す「パーソナルトレーナー」としての先生方の姿を追う本企画。今回は、1年4組で行われた辻本将大先生の社会科（地理的分野）の授業（単元名：「世界の諸地域 ヨーロッパ州 ― 国境をこえた結び付きと地域の違い ―」）を参観しました。「なぜ、イギリスでは、EU への残留・離脱をめぐる意見がわかれたのだろうか」という知的な問いを掲げ、ICT を活用して思考を可視化しながら生徒の学びを深める素晴らしい授業の様子をお届けします！

◆ ICT による「意見の可視化」が生む、対話的で複眼的な学び



辻本先生の授業で特に際立っていたのは、生徒たちが根拠を持って自分の意見を形作れるよう工夫された、ICT 機器の活用術です。生徒が自身の考えを入力すると、リアルタイムで学級全体の一人一人の意見が画面上に可視化される仕組みが構築されていました。クラスの多様な視点がひと目で把握できることで、生徒たちは「なぜ自分とは異なる判断をしたのだろうか？」という問いを持ち、他者の意見を参考にしながら自身の考えを深めたり修正したりすることができていました。

◆ 異なる立場への共感から育む、根拠ある思考と探究の広がり

授業では、辻本先生がオリジナルで作成した地域や職業、年齢などの生活条件が異なる4人の人物資料を活用し、「大切にしていること」や「心配していること」に着目して読み深める活動が行われました。単に「残留か離脱か」という二者択一の答え合わせに終始するのではなく、立場が変われば同じEUの仕組みも「メリット」にも「不安要素」にもなり得るという社会の多面性を生徒自身に見出させていました。辻本先生は生徒同士の対話の様子を温かく見守りながら、相手の立場を踏まえて自分の意見の根拠を深められるよう絶妙な声かけで伴走。答えを提示するのではなく、生徒自身の手で思考をアップデートさせていく指導は、まさに理想の伴走者の姿でした。

◆ おわりに

リアルタイムな意見共有と深みのある資料読解を掛け合わせ、生徒一人一人に社会を多角的に見つめる眼差しと根拠ある思考力を育てくださった辻本先生。他者を尊重しながら自らの考えを築く学びの楽しさを教えてくださる日々の実践に、心から感謝いたします。いつも本当にありがとうございます！